

令和元年度第10回移動市長室会議録

御笠まちづくり協議会自動車部会

～人と地域をつなぐ 御笠自治会バス～

1 日 時：令和2年2月21日（金曜日）14時～15時30分

2 場 所：御笠コミュニティセンター 会議室

3 出席者：

『御笠まちづくり協議会自動車部会』10人

八尋会長、長谷副会長、池本副会長、日永田副会長、ほか6人

『筑紫野市』8人

藤田市長、宗貞企画政策部長

中尾企画政策課長、城塚企画政策課係長、寺崎企画政策課主任

杉村秘書広報課長、山崎秘書広報課係長、渡辺秘書広報課主事

4 内 容：懇談

○（事務局） 改めまして、皆様こんにちは。本日は大変お忙しい中、ご出席をいただきまして誠にありがとうございます。筑紫野市では市民の皆様の声を市政に生かしていくことを目的として、このように月に1回程度、市長が地域に出向く移動市長室を、団体やグループの皆様と行っているところでございます。

御笠まちづくり協議会の皆様とは平成24年2月の第6回、平成28年8月の第60回と行ってまいりまして、今回は自動車部会の皆様との移動市長室となりました。短い時間ではありますが、有意義な時間にしたいと思っておりますので、最後までよろしく願いいたします。

それでは、ただいまから令和元年度第10回、通算99回目となります移動市長室を御笠まちづくり協議会自動車部会の皆様と、「人と地域をつなぐ 御笠自治会バス」をテーマにお手元の次第のとおり始めさせていただきます。

本日の懇談の内容は、会議録を作成しまして公表させていただきます。撮影しました写真や動画は市のホームページ、広報紙に掲載いたしますのでご了承くださいませ。

初めに、藤田市長が皆様にごあいさつを申し上げます。

○（藤田市長） 皆さん、こんにちは。筑紫野市長の藤田陽三でございます。八尋会長さんをはじめ、御笠まちづくり協議会自動車部会の皆さんにおかれましては、日ごろから御笠自治会バスの運行にあたって、ご尽力をいただきますとともに、市政運営にご理解とご協力を賜っておりますことを、この場を借りて深く感謝申し上げ、御礼申し上げます。

御笠自治会バスにつきましては、運行開始から1年が経過し、その間、住民自らが運転業務を行うほか、運行管理や車両の整備に至るまで、御笠まちづくり協議会自動車部会が担ってきていると、このように伺っているところでございます。まさに、地域の課題は地域で解決するということが具現化された、この御笠自治会バスは地域コミュニティによりますまちづくりのモデルケースになっていると、このように思っております。

本日は、皆様の活動内容、その活動に対する思いをお聞きしながら懇談させていただき、これからの市政に生かしてまいりたいと考えておりますので、最後までよろしく願い申し上げます。ごあいさつに代えさせていただきます。よろしくお願いいたします。

○（事務局） 今日は、オレンジ色のウェアで統一していただいています。続きまして、御笠まちづくり協議会の八尋会長よりお願いいたします。

○（八尋会長） 改めまして、こんにちは。今日は移動市長室ということで、藤田市長をはじめ、宗貞部長、企画政策課長等、皆さんご臨席賜りまして誠にありがとうございます。

99回という記念すべき回ということで大変感謝申し上げたいと思っております。

昨年の1月8日に御笠自治会バスが走りだしまして、昨年1万人を超える利用者になりまして、これもひとえに筑紫野市と、自助、共助、公助という中で、特に共助の部分が表れた結果ではないかと思っております。

私どもといたしましては、御笠まちづくり振興会のときからこのことについて協議しておりまして、特にまちづくり推進計画で、地域住民の皆さんの声が一番多かったところでごさいます、重点項目5項目ございましたけれど、その優先順位が一番だったということでごさいます。

御笠まちづくり振興会のときの会長からの共通点は1つ、できることから始めようと。これがまず合言葉で、後ろ向きの世界はなくて、なんとか仕上げようという強い意志でやった結果ではないかというふうに思います。まして16行政区全部、事務局長を中心に全地区を回って、住民の声を聞いたということがこのまちづくりの本当の基礎になっている部分ではないかと思っております。ややもすると、大変な事業ですので、面倒くさいことはやめようやというのが、大体どこも出る意見でごさいますけども、やはり住民の住民による住民のための、一つのまちづくりとしての御笠自治会バスであるということが、今回大きな我々の今の事業展開につながっていると思っております。

今年も1月に小郡のほうから視察にみえましてし、近々では2月に飯塚市の筑豊支部のほうからもみえまして、今、御笠まちづくり協議会が持っているノウハウは全てオープンにして、なんとかまちづくりの一助になるように、市の協力も得ながら、全面協力をしている状況にごさいます。

今、住民のためと申し上げましたけど、特に一番の原動力は、自動車部会を中心といたしました運転手さん。現在28名おりますけど、この運転手が住民であるということ、そしてやはり率先して、このまちづくりのために体を張ってやっていただいていることについて、本当に感謝を申し上げる次第でごさいます。一人一人が御笠まちづくりの柱となっただけにございまして、1年間を過ぎた中で、今日、移動市長室で、後で詳細の説明がございますけども、御笠まちづくり協議会といたしましても、優先順位の第1位として、まちづくりの一番屋台骨として、今後のまちづくりの重要性をほかの地域にも影響ができるような形で取り組んでいきたいと思っております。

やはり事故がないこと、それから住民に安心を与えること、そして利用してよかったということ、これから先も一步一步進めてまいりたいと思っておりますし、今後とも、筑

紫野市とともに一緒に一步一步前進していきたいと思っておりますので、今後ともよろしくご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げまして、あいさつに代えさせていただきます。本日はよろしくお祈いします。ありがとうございます。

○（事務局） ありがとうございます。ここで、本日の参加者の自己紹介を行います。

私は、本日の進行を務めます秘書広報課の杉村と申します。よろしくお祈いいたします。

○（宗貞企画政策部長） 企画政策部の宗貞と申します。どうぞよろしくお祈いします。

○（中尾企画政策課長） 企画政策課の中尾と申します。よろしくお祈いします。

○（企画政策課） 企画政策課の城塚と申します。

○（企画政策課） 企画政策課の寺崎と申します。

○（秘書広報課） 秘書広報課の亀井と申します。

○（秘書広報課） 同じく秘書広報課広報広聴担当係長の山崎と申します。

○（秘書広報課） 皆さん、こんにちは。秘書広報課広報広聴担当の渡辺と申します。

○（事務局） 続きまして、自動車部会の皆様に、八尋会長から順に自己紹介をお願いしたいと思ひます。

○（八尋会長） 御笠まちづくり協議会の会長をしております、八尋と申します。

○（長谷副会長） 同じく、御笠まちづくり協議会の副会長を仰せつかっております長谷と申します。よろしくお祈いします。

○（池本副会長） 同じく副会長をしております池本と申します。

○（日永田副会長） 同じくまちづくり協議会の副会長をさせていただいております日永田と申します。また、副会長のほかに運転業務をやっておりますのでよろしくお祈いします。

○（平嶋事務局長） 私は、まちづくり協議会の事務局長をさせてもらっています平嶋と申します。どうぞよろしくお祈いいたします。

○（齋藤自動車部会長） 自動車部会の会長を仰せつかっております齋藤でございます。

○（津下運行管理責任者） 皆さん、こんにちは。自動車部会管理責任者として業務に携わっております。津下と申します。よろしくお祈いします。

○（高田運転手） こんにちは。御笠自治会バス運転手の高田と申します。

○（安樂会計） こんにちは。私はまちづくり協議会の会計をしております安樂です。自動車部会のほうでも会計をしています。よろしくお祈いします。

○（櫻木支援職員） 御笠まちづくり協議会の支援職員をしています、櫻木と申します。どうぞよろしくお祈いします。

○（事務局） ありがとうございます。それでは、ここからは活動報告を平嶋事務局長からお願いしたいと思います。

○（平嶋事務局長） それではただ今から、自治会バス、いわゆる私どもまちづくり協議会自動車部会の活動について、概略ですが、この1年間を振り返りながら経過とともに市長に報告をしたいと思います。

先ほど、会長からもお話ししておりますけども、昨年ちょうど1月8日から運行開始をさせていただきまして、そのときには市長をはじめいろいろな方から応援メッセージをいただいております。ご多忙の中、市長それから議長が出席していただいて、無事出発を行うことができております。

また、ご存じとは思いますが、自治会バスにつきましては宝満川を挟んで2つのルートを、2台のバスでスタートさせていただきました。ただ2台ですと、やはり車のトラブル、故障があったり、点検で1日休まなければいけないとかいろいろなことがあるものですから、私どもから市のほうにもお願いして、もう1台どうかして、ぜひ車検のときも運行できるように、というようなお願いをしておりましたら、今年1月、3台目を配車させていただいております。この3台目があることで、私ども運行にあたっては、何かあったとき3台目があるからということで、運転にあたってのプレッシャーなく、もし故障したとしても予定どおり運行できるというように安心させてもらって、運行しておるところです。市長に改めてお礼を申し上げたいと思います。ありがとうございます。

先ほど申し上げましたけど、自治会バスにつきましては、2つのルート、これは宝満川東ルートと言いまして、一番上流側は柚須原地区。カミーリヤが終点です。西ルートは、御笠の行政区でいいますとゴルフ場団地がスタート地点で、同じようにゆめタウンを經由してカミーリヤという、宝満川がこういう形で流れておりますけれども、それを挟んで2つのルートで今運行をさせてもらっております。

自治会バスについては、会長も先ほど言いましたけど、やはり地域の住民の意見もありました。当然そうすれば自分たちでバスを運行していきたい、どうかしていきたいなということで、運行は地域で行うということで、この当時、御笠まちづくり推進計画を作るにあたって、当時のプロジェクトチームが各地域に入りまして、いろんな意見を聞いております。その中で、やはりこの地域は交通の便、非常にその部分がつらいところもあって、バスの運行というのは非常に大切なことであるということで、第1番に置いて推進計画が策定されております。それを受けて現在に至っていると、大きくはそういう感じに

なっております。

運行するにあたっては、我々役員を含めて地域の間人も、このバスを自分たちで走らせるということについては、内容をほとんど知りませんでした。たまたま運がいいことに、近隣の自治体で先行して、若干形態は違いましたけども、自分たちの自治会のメンバーで地域と商業施設をつなぐような運行をされている事例もありました。そこにいろいろ視察をさせていただいて、それらを参考にして今の自治会バスのベースができております。

そういうのを踏まえまして、そうしたらバスをどこにどういうふうに通らせたいのか、あるいはどういうルート、どんなところに立ち寄るようなコースにしようとか、いろんなのを何年もかけて、そしてまた地域に入って、地域から入ってきた意見を踏まえて当時の役員、実行委員たちで、このような形で何度も話し合いを進めてきております。

実際、具体的に話を進めるにあたっては、御笠地区には交通の問題が大きくは4つありました。その中で一番大きいのが、こちら宝満川下流側からの写真になっておりますけども、向かってこの右側です。ここ上阿志岐東、あるいは中阿志岐地区、下阿志岐地区です。この地域はもともとバスが走っていないエリアで、いわゆる筑紫野市でも数少ない交通の空白地域と言われていました。路線バスを利用しようと思ったら、結構な距離を歩くということで、不便であるというような話がまずは1つ、大きな課題としてありました。

それともう一点は、御笠地区の平坦な場所というのは、意外と農地ばかりなんですよ。もう田んぼが広々と、阿志岐、吉木地区も含めてです。その周辺、山沿いに既存の住宅地があります。プラス新たに開発された住宅地もやはり丘陵地を利用して造成されている関係上、こういうような高台で坂道が大変多い。これが造成されて30年、40年経っていますので、生活されている方たちも、生活を始めた頃は30代、40代で元気な方たちだったんですが、今は買い物とか病院に行くのも、バス利用時は非常に坂道を歩くのがつらいというような意見も出てきております。

それと、買い物の問題です。ここは農村地帯がメインになっていますので、今近いところでも原のほうのダイレックスというのが今ありますけど、日用品だけじゃなくて、まとめていろんな身に付けるものなども含めて買い物に行きたいということになると、どうしてもここに写真がありますが、これはゆめタウンでございまして、そういうところに立ち寄りたいということもありました。そういうのも一つの検討として挙げさせてもらっております。

それともう一点は、ちくしのバスです。これはいわゆる吉木から柚須原までの、基本的

には吉木小学校あるいは筑紫野中学校へ通学する子どもたちに対して、学校の時間に合わせて、市のほうが当時西鉄に委託していただいて、ちくしのバスということで運行していただいております。ただ、これが子どもの通学を主体に置いてましたので、ちょうど高齢者の方が病院に行きたい、買い物に行きたいという時間帯に便がないというちょっと不便なところが、バスは運行しているけど、というような課題がありました。

こういうような課題を踏まえて、ならそういうのを少しでも解消できるようにということで、こういうルート、それから時間帯と運賃ですね、それからバス停の位置、そういうのを含めて検討していく必要があったんですが、私どもまちづくり協議会の役員あるいはプロジェクトのメンバーと市のほうと話し合いながら、一応仕事の分担みたいなところ、まずは決めさせていただきました。やはり、我々としても役員だけで決めてもなかなか地域の住民の声が届かないよねということで、手間はかかりましたけど、まずは私ども協議会の役員が各地域に、要するにこんなバスを走らせたい、皆さんどんな風に走ったほうがいいと思いますかということでいろんな意見を聞きに行きました。当時は16の行政区でしたけども、基本的には自治会単位のところも入っております。私は全部に行ったんですが、ちょうど10月くらいから翌年の3月くらいまで、約半年かけて20の自治会に出向きまして、お話をお伺いしております。こんな意見、こういうふうに走ってほしい、バス停はこのあたりがいいとかありました。それをまとめた上で市のほうと話をさせてもらっています。それを受けて市のほうは、少なくとも運行するにあたってはどのような方法だとか、当然筑紫野市も国とか路線バス会社、それからタクシー、それから警察、いろんなところとお話をしなければいけないので、市だけでも決められない。ですから、市も私どもの意向を受けて、そういう関係機関とお話を進めていただくというのが、一つの流れになっております。

それを踏まえて、いろいろ協議した結果、最初にお話ししました柚須原地区からゆめタウンを経由してカミーリヤ、これは宝満川東ルートということで、阿志岐地区の交通空白地帯も含めて通る。それから、こちらは宝満川西ルートということで、ゴルフ場団地を起点に同じようにゆめタウン、カミーリヤというような形になっております。蛇足になりますけど、もともとまちづくり推進という点で、私どもの意向は、今終点はカミーリヤになっておりますが、やはり交通アクセスの問題などがありましたので、最終的に理想としてはゆめタウン、それから朝倉街道駅、JRの天拝山駅、そしてイオンモール、そういうのを一つの案として、当初提案をさせていただいております。ただやはりそれは、既存の

交通機関との重複とか、いろいろそういうので手続的に難しいということで、このカミーリヤを発着させるバスになりました。一応これでいきますと、今度はカミーリヤで市が運営されていますつくし号とも接続して、市役所とかほかの公共施設にも立ち寄れるということでもらせてもらっております。

それからルートの次はバス停です。これがちょっといろいろあるんですが、もともとカミーリヤバスが、御笠にも走っております。それから、このカミーリヤバスのバス停が使えるところをこういう形で、土台型の普通のバス停みたいなものを設置させていただいておるんですが、この自治会バスはどうしても生活道路、既存の集落あるいは団地内の狭い道路に、あるいは坂道がというようなところも走りますので、道の広さや乗り降りの安全性を考慮して、大半はこの路面標示型でいこうということで、基本的にはこの2種類のバス停を作って、皆さんに利用させていただいています。

それから運賃の話でございますけど、これも一応バスにつきましては道路運送法で定められていますので、なにがしかの料金をもらう必要があるということでした。一つありましたのはカミーリヤ。これは福祉施設で、もともとカミーリヤバスは福祉バスで無料でございますので、カミーリヤを利用、乗降される方は無料にしましょう。それからもう一つは、さっきもお話ししましたが竜岩地区、いわゆるちくしのバスの運行エリアについては、もともと100円で大人も利用できていましたので、この赤い点線で覆っている部分は100円、それ以外は全て200円、という三本立ての料金設定でスタートをさせてもらっています。

続いてはバスの自動車部会の、本格的な中身について説明したいと思います。この自治会バスを運行しようということで、先ほど10月から3月頃まで地域とお話し合いしましたと言いましたが、その後、具体的な話を市としまして、いよいよ運行できるという状況が見えてきた段階で、役員だけで基本的には動いてましたので、この自治会バスを担当する部会が当時まちづくり協議会にはなかったんです。なので、新たに自動車部会というのを、ちょうど平成30年の12月に作りまして、31年の1月から運行という形をとらせてもらっています。

またこの自治会バスは吉木小学校、筑紫野中学校に通学される小学生、中学生も対象にしております。そして、当然ながら小学生の学校の始まりには間に合わなければいけない。そしたら、逆算すると柚須原を7時半ぐらいには出発しないといけません。ここに7時45分ぐらいに着かんと、学校の通学のいろんなのに子どもたちが間に合わない。さらに

ルール上、運転手はその日の朝、前の日の酒が残ってないかとか、体調はいいか、それから車、ちゃんと灯りつく、調子が悪くないかという点検の時間帯が必要になるんです。基地をこのコミュニティセンターに置いておりますので、7時半ぐらいに柚須原を出るためには、大体遅くても7時前後ぐらいにはコミセンを出たい。だとすれば、逆算しますと6時半ぐらいには運転手、それからそれをチェックする、我々一応立会人と言っていますが確認者ですね、が来て一緒に確認していきます。特に確認者はお酒が好きな方に前の日に飲み過ぎとらんかどうかのアルコールチェック、それから体調はどうか、それから車の調子はどうかというのを確認をしながら、毎日運行を続けております。当然、運行しながら運転手は、場合によっては利用者からよか話もあれば、いやごとも聞きながら、降りるときにはありがとうございますでお金をもらったり、いろんなことも今しているところなんです。

現在、全部で28人ほどの運転手さんがおられます。東ルート、西ルートの2つのルートで、さっき言いました朝の早いところは6時半ぐらいからここに来て、最終は夜の19時ぐらいで終わるんです。それを1人でこなすのは、安全面からいくとできませんので、今はちょうど昼頃ですね、12時、13時ぐらいにバスがここにいったん帰ってきます。ちょっと小1時間、時間がありますので、いずれのコースもその時間帯で運転手を交代します。なので、1日4名の運転手の確保が必要になります。そういう調整をさせてもらっております。それをするにしても、Aさん、Bさん、Cさんの個人のいろんな用件とかもありますよね。ですから、いつAさんが運転できるかという確認のために、大体今2月でございませうけど、例えば来月の運行の、Aさんが3月3日の午前中に乗るよとかいう取り決めを行います。大体月の下旬、今月ですと来週、自動車部会の集まりを開きまして、あらかじめ私ども事務局で、前もって情報提供をいただいておりますので、それを集計して皆さんに出して調整をして、運行できるような形にしています。ただそれでも、当然ながらそれぞれ生活がありますので、急に用件ができて運転できないということもありますので、そういうやりとりは前の日までに処理するというような形で、この1年は走っております。

先ほどもちょっとお話をしましたけど、運行前、こういう形でエンジンオイルとか、場合によってはベルトとか、あるいはランプ類、いろんな細かいところまで含めて車両チェックをしていただき、これにさっき言いました立会者が一緒に来て回るということで、その毎日チェックした紙をもらってゴーサインを出しているというところなんです。

運転手さんは運行前、あるいは時間のとれたときに、どうしても車が雨とかで汚れますので、やっぱり少しでもきれいな車両で乗っていただきたいということで、こういう洗車、それから車内も、天気が悪いときとか、泥とか結構入りますので、掃除機で清掃しております。丁寧な方は20分、30分かけて洗っている方もおられます。

それと、このバスの運行にあたって、自治会は運転手をどう確保しようかというのが大きな課題でした。今日、参加していただけていますが津下さん、管理者からの話を聞くと、やはり相当な人間がいないと運行できないのではないかとということでした。慣れてないのもあるし、それからお客さん相手だから、ある程度運転に慣れた方でないといけない。かつ人との会話というか、日常的にマイカーを運転するのと違って、乗客との世間話も必要になってきます。そういうことで、なかなか運転手になってくれる方が少ないんじゃないかという危惧はありました。こういう形で運行前に、ちょうど1月に運行しますので、その前年の秋頃募集をかけました。これも私どもの事務局でさせてもらいました。基本はボランティアなので、謝金はどうしようかという議論もあったんですけど、やはり時間を拘束されますし、場合によっては人の命を預かる形になるので、なにがしかということで、当時の最低賃金を参考として、運転手さんには出させていただいております。こんな形で何とか毎日運行できる人数が確保できたということでございます。

これは自動車学校の写真です。お金をもらってバスを運行するので、このバス車両そのものの運転は、道路交通法上は普通一種免許でいいんですけど、お金をもらって運行するとなると、本来ですとタクシーあるいはバスのように、二種免許が必要になります。ただ、今回は市が主体になっているということで、国が定める専門の講習会を受けました。これは、あなたたちはマイカーを運転しよるけどお客様を乗せて運転したことないよね。だったら、運転する際、こういうことを気をつけてしなさいという、こういう講義と、それから実務運転ですね。この講習会が福岡の近くにはなかったものですから、長崎県の新西海自動車学校というところでしていただきました。2回に分けて受講したんですけど、最初の20名は、こちら御笠コミュニティセンターに長崎から出張で来ていただいて、講習を受けております。それから残りの8名は、こちらから長崎に行って講習を受けさせていただいて、今28名が登録しているというところです。

何度も言いますが、私ども運転手は、当然ながらマイカーしか運転したことがない方が大半です。そういうことで運転の心構えみたいなのを、つくし号を運行されていますつくしの観光バスさんに、市のほうから相談していただいて、喜んでということで来ていただ

いて、研修会を開かせてもらっています。今後も我々素人は、なかなかわからないところがありますので、そういう研修会をしながら、充実したものにしていこうというところ です。

これは私どもが作っている会報で、いろんな御笠まちづくり協議会の情報を地域の方に お伝えする、紙の会報みかさと、もう一つはユーチューブに掲載しております。多分、 ユーチューブ、慣れてある方はこっちのほうが早いんでしょうけど、やはり紙が安心され る方は、こちらを各家に配付しまして、こんなことをしてます、こういうふうになります よということを皆さんにわかるように情報を提供しているところです。

それと、この御笠自治会バスの今の形態そのものが、筑紫野市の中で一番最初の取り組 みになっているようです。ほかの自治体、先進地ということで小郡に行ったんですが、小 郡も最初自分たちだけで動いていたみたいで、行政はその後から関わってきたそうです。 それから、何日か前には飯塚市が来られてますが、飯塚も、どうかしていきたいんだけど、 今地域の意見がなかなか入ってないコミュニティバスになっている。やっぱり自分たちの 地域で生活している人たちの声が入った形態のバスにしたいということでした。そういう ことで、どうも御笠はいろんなことをされて、今運行されているようだから、その現状を 聞かせてくれというようなことで視察に来られています。この写真は先月来ていただいた 小郡市。ベレッサ号というのを運行されているということで、小郡市の自治会のメンバー も、私どもも何人か写っておりますけど、来ていただいたときの写真でございます。

これは利用者数のグラフでございます。ちょうど1年経っております。昨年1月から 大体年末くらいで利用者は1万人を超えております。あと少し増えかけてはいますけど、 運行当初は大体1日で大体25人程度の利用であったのが、この頃は大体30人から 35人は利用しておられます。もともとカミーリヤバスがありましたので、その固定の方 たちもおられますけど、少しずつ増えてきているというのは実情のようでございます。

これは利用者、この方は東ルートに乗られる方なんですけど、カミーリヤへいつも風呂 に入りに行きよる、それとパソコンもしよるとか言われていて、結構元気のいいおじい ちゃんなんですけども、やっぱりバスが家の近くまで来て、利用しやすくなるとるけん、助 かるという話をよくされております。

運行から1年経ちましたけど、今度はそれ以降、実際利用してから、ちょっとこれがあ ったらよかったとか、不便やねとかいう意見も取り入れながら、次の段階にいかうかなと、 作業を始めようと考えているところです。

これは西ルートです。みかさ台とか宮の森、そちらの方面からカミーリヤに行きます。この方たちもカミーリヤと、それからゆめタウンによく乗って行かれる常連さんです。常連さんなものですから、ゆめタウンの買い物の時間とかカミーリヤのいろんな教室の時間があると、「贅沢言うたらいかんばってん、カミーリヤに何時に着くことがあったほうがよか」とか、あとは「帰るときじっと待たないかん。もうちょっと早めに出発できるような時間があればよかね」とか、そういう話もちらほら出てきております。

この子は吉木小学校に通学しているお子さんです。今、正直言いまして柚須原、香園、本道寺で2人しか小学生がいないんです。それと中学生が1人。今は子どもが少ない時代でもあるんですが、1人だとしても、学校に行けないというような環境は作れませんので、今後ともそういう土地で生活している子どもたち、あるいは親の世代の不便さがないように、僕らも頑張っていく必要があるかなと思っています。

運転手が着ているオレンジのジャンパー、今日もみんな着ていますが、御笠地区でいろんなイベントがあるときに着ていて、市長も何度かこの色のスタッフの色は見ています。ただこれだと夏が暑いということで、昨年夏にベストみたいなものを用意しました。寒いときは今着ている長袖を着て、わかりやすくしていこうとしています。

これから、我々もこの地域に住んでおりますので、事故がないように、みんなにあってよかったねって思われるようなバスにしていきたいと考えております。

本当はこれで終わりたかったんですが、あと追加で、昨日福岡市で新型コロナウイルスの感染者が2人出たというニュースを見ました。もう近隣の自治体でありますし、我々もお客さんにつながるような仕事をしているということで、少なくとも運転手のマスクの確保など、ちょっと対策を講じようかなと急遽思い立ったところでございます。お客さんにも迷惑はかけられないですし、いろいろニュースを見ると、タクシーの運転手さんとかバスの運転手さんも乗せたお客さんの影響があったようなふうにも聞いております。やはり運転手の健康管理。今28人なんですが、実際20人ぐらいで動いています。ですから、その辺りが欠けてくると、また運行にも大きな支障が出ます。それがないように、僕らの健康管理、あるいは裏方の私どもを含めた事務方も支えながら、今後とも御笠の住民、あるいは筑紫野市の状況がよくなるような形で頑張っていきたいと思っています。

簡単ではございますけど、これで御笠まちづくり協議会自動車部会の活動報告にさせていただきます。どうもありがとうございました。

○（事務局） とても詳しい活動報告をありがとうございました。

御笠自治会バスの誕生の経過から現在の利用者の様子まで大変詳しくご報告をいただきました。地域の方々のためにと力を合わせて取り組んでいらっしゃる様子が伝わり、バスを通してまさにまちづくりの一翼を担っていただいている、人と地域をつなぐ活動の報告であったと感じました。

ここからは具体的なバス業務を通して、皆さんから感じたことなど、お1人ずつご発言いただければと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。まずは長谷副会長にお尋ねしたいと思います。長谷副会長が初めてこの自治会バスを運転されたときの心境などを教えていただきたいと思います。お願いします。

○（長谷副会長） バスの運行が決まってから、私が担当しています東ルートのコースの確認をしました。特に、事務局長が説明いたしました、路面標示のバス停が多いんですよ。わかりにくいので、まずその位置の確認。そして、マイカーを使って、コースの下見を何度か行いました。いよいよ運行スタートの初日、第一日目に私運転したんですけど、私はプロのドライバーではありません。でも、10人近いお客さんを乗せます。また、利用者は高齢の方が多んじゃないかと思うと非常に緊張しました。とりあえず、運転スタートしまして、お客さんに乗っていただいて、まずあいさつ。それから降りられるときに、「ありがとうございました。気を付けて」と言うのが精一杯でしたね。今みたいに、利用者のお客さんと会話するような余裕なんてとてもなくて、3時ごろまで運転したんですけど、もう終わったときはどっと疲れましたね。それは今でも記憶にあります。

それと、今日午前中運転したんですけど、これは1ついい話だなと思ったのが、いつも利用されている方が昨日も乗っていなかったと。今日も乗っていなかったんですよ。そしたら、お客さんが、あれ何でかなと。じゃあ、ちょっと電話してみようとなりまして、これ見守り活動の一端を担っているんじゃないかなと思ったんですね。お客さん同士で、こういったつながりがあるというのはいいことだなと思って、今日はお客さんも多かったですし、いろんな楽しい話も出ていたんで有意義な日だったなと思っております。以上です。

○（事務局） ありがとうございました。

それでは、バスを運転する際の心構えなどについて安樂さんをお願いしたいと思います。

○（安樂会計） 先ほど活動報告でもお話がありましたけれども、まず車を運転する際に、車の点検というのは当然ありますが、まず車を洗って、そして余裕を持ってゆとりのある運転をしていく、というのが1番基本であると思っております。ましてや、前日の深酒は当然しない。利用者の不快感や不安感をあおるような、そういった行動はしないというこ

とで、もしそういった場合については、運転手から次の運転手に必ず連絡をして、交代してもらおうというようなものを現在行っております。基本的にはシフト制で会議がありますけれども、その中で個人的な用件については十分連絡をしながら、事務局のほうに全てをお願いしてシフト等を組んでいただいております。そういった中で、酒を飲むような機会がもしあったならば、先ほど言いましたような形で対応をしていくと。確実に責任を持って、次の人の運転を頼むというような形で全ての運転手が臨んでいます。以上です。

○（事務局） ありがとうございます。続きまして、日永田副会長にも車内の雰囲気などについてお尋ねしたいと思います。

○（日永田副会長） 今、長谷副会長、それから安樂さんのほうから運転手のお話がありましたので、私のほうは乗ったお客様について、ほとんど90何パーセントはお年寄りの方なんですよね。おじいちゃんよりもおばあちゃんが多いんです。おばあちゃんが多いもんだからお話好きなんですよね。ですから、私、運転しとって、話してくれたら相槌は打てますけど、あんまり話しかけられて話聞いとったら、今度は運転のほうがおろそかになってしまってちょっと危ないかなと思って。それは極力注意をして運転をしています。

また、私、日永田ですけど、日永田姓は筑紫野市で香園しかないんですよ。で、「あんた日永田さんっていったら香園やろ」と声かけられて、「ああそうですよ」と。そしたら、「じいちゃん誰」とか、「親父は日永田何とかです。もう死にました」と言ったら、それから、仲良く乗ってある方たちが「この人はあそこの息子ちゃんとかい」とかいう話をされていて、和やかな雰囲気になって、サロンの役割もひとつ兼ねているんじゃないかなと感じています。私のほうからは以上です。

○（事務局） ありがとうございます。サロンの役割も担っていただいているというお話でございました。もう一方、高田さん、車内の雰囲気と高田さんの感じたことをお話いただきたいと思います。

○（高田運転手） 私は西コースを担当しています。女性が2人連れで乗られたときは、大体車内で、小さい声でずっとしゃべっております。次のバス停でまた顔見知りの女性の方が入ってこられると、もうそれこそバスの中がにぎやかになるんですね。どんな話の内容かといいますと、買い物の話で、特にゆめタウンにお連れしますんで、ゆめタウンが今日はポイント何倍よとかこんな話とか、それとか家族の話ですね。それとか、これは最近よく聞くんですけど、この自治会バスが運行して、非常に助かっているという感謝のお言葉がお客さん同士でお話してある。そういう声もあがっています。

それから、一方、男性のお客さんです。男性のお客さんはスタート当初はほとんどいらっしやらなかったんですけど、最近徐々に増えてきております。乗ってこられたときは、あいさつ程度はされるんですけど、男性のお客さんはほとんど静かに乗ってあります。その代わり、目だけはまっすぐ前方を見ているもんですから、運転も注意しながら運転せんと、スピードを出したりしたらどうも後ろから見られているような感じがするもんですから。やっぱり安全運転。それから、急発進、急ブレーキ、こういうのは絶対避けようという気持ちで今運転をしております。以上でございます。

- （事務局） ありがとうございます。地域の皆さんの大事なコミュニケーションの場になっていることと、運転には非常に気を使われているというお話を聞かせていただきました。

それでは、齋藤部会長のほうから。先ほどシフトの調整などもされていらっしやるというお話でございましたけれども、自動車部会の話し合いの内容について、教えていただきたいと思います。

- （齋藤部会長） メインは次の月の運転手のシフトを決めること。それと、運転手の確認をする人のシフトも決めるということが主なことでございます。それと同時に、事故がないようにお互いに気を付けましょうというようなお話をしております。

あとは、今年2回あったんですけど、運休をどうするかっていう悩ましい話がありました。冬は雪が、今年はちょっと降っただけでもう雪はほとんどないんですけど、大雨のときに2日休みました。そのときにどうするかっていうことで、会長とか事務局長とか集まって、どうしようどうしようっていう話をするんですよ。市の関係のバス、その辺りの話を聞きながら、よし、今日はもうやめとこうとかいう話をしております。ちょっと悩ましい話でございます。

- （事務局） ありがとうございます。いろんな苦労や調整もいるということでした。

先ほどから報告にもありましたけれども、バス利用者の方の声を池本副会長のほうから教えていただきたいと思います。

- （池本副会長） たまたま昨日、防災の見回りで回っていたところに、ご婦人の方々が4、5人で井戸端会議をしていたので、そこに割り込んでお話を聞いていたんですけども、1人は自治会バスを利用していない方で、まちづくりの推進計画の事業の中に自治会バスが入っていたのは知っていたんですけど、まさか本当にこんなに早く実現するとは思っていませんでしたとびっくりしていました。それから、利用していらっしやる方は、ゆめタ

ウンの買い物によく利用していますということです。希望する時間帯に運行してほしい気持ちはありますが、本当に助かっていますので、個人的な不満は言わないようにしているそうです。

中には、今まで買い物のたびにご主人に車を運転して連れていってもらっていて、ご主人の機嫌を伺わないといけないときもあったらしいんですけど、今は自由に自分の時間で買い物に行けるので本当に助かるということでした。

それから、これから利用しようと思っっている方で、高齢で免許を返納しようと思っっている方がいらっしゃって、家の近くで乗り降りできる自治会バスがととてもありがたいと思っっているということでした。

それから、自治会バスが走りだしてすぐに、あるサークルでバスを使って歩こう会を実施しようという企画がありました。行きは歩いて、それからお昼ご飯を食べて、買い物をして、買い物ツアーでもいいじゃないかということで、帰りに自治会バスを利用したそうなんです。たまたま人数がちょっと多くて、1台のバスに乗り切れなくて、西コース、東コースのバスに分かれて乗車したそうなんですけど、もれなく乗れてよかったということでした。すごく楽しかったということなので、これはこれで面白い企画だなと思いましたし、またそういう企画ができるといいなと思いました。

それから、皆さんそれぞれに助かっていると思っながらも、いろいろ欲が出てくるそうです。まずは、継続してもらうことが大事なので、運転手の皆さんに健康に気を付けて頑張っしてほしいと心から願っっていました。これからもいろいろな課題が出てくると思っますけれども、1つ1つクリアして継続していくことがいいのかなと思っております。

○（事務局） ありがとうございます。それでは、この自治会バスの取り組みが御笠まちづくり協議会の活動に与えた影響などについて、櫻木支援員からお願いしたいと思っます。

○（櫻木支援員） まず最初に、自治会バスを走らすことにあたって、チラシ1枚で運転手さんの確保がどれくらいできるかなという不安が私たち事務局側にありました。ですが、今運転手さんが28人ぐらいいらっしゃるんですが、ほぼまちづくりに関わった人ではなく、こちらにいらっしゃる高田さんもそうなんですけど、ご自分から、退職されてこういふことで地元の方に貢献できる場があるなら私でもいいでしょうかという形で、逆に運転手の皆さんから言ってこられた方が多いです。その中には、やはり自分も地域に貢献したいという方もいらっしゃいますし、謝金も少し出ますから、自分のお小遣い稼ぎにもなるしというところで。

この28名というのは、私が今までまちづくりに長年関わってきて、大体皆さんの顔って覚えていたんですが、この自動車部会を立ち上げたことによって、また知らなかった方たちが来てくれて、またその中で輪が広がっていくということは、やっぱりまちづくりなんだなと、これが私たちがやっていることなんだなと思いました。お客様も運転手さんと仲良くなられて、いろいろお声かけとかもしてくれそうですし、そこでまた人のつながりができてきたことが、やはり私たちが求めているまちづくりの1つじゃないかなと思って、今私にとってこの自治会バスはすごく嬉しいこと、自慢することになっています。

○（事務局） ありがとうございます。それでは、運行管理責任者の津下さんに、運行を開始されてからこれまでの感想や、管理者としての講評などお伺いしたいと思います。お願いします。

○（津下運行管理責任者） そうですね。私は運行管理者をさせていただいて、1番に優先されるのはお客様の安全なんです。そのためには、やはり乗務員の安全。特に、立会いに私は出ますけど、アルコール検査をさせまして、それから体調ですね。今日は息が苦しくないとか目まいがするとかかそういう話を聞きまして、異常がなかったら、今日1日よろしく願いますということで乗務員の方を送り出しております。

それと、御笠まちづくりのドライバーの方、ちょっと年齢がいらっしゃいますので、緊急時のときの取り扱いですね。やはり乗務員の健康な体がないとお客様を守ることはできませんので、もし乗務員に異常があった場合は、その手続き、緊急の処置の仕方、これをまた今度部会で話し合っ、取り決めていこうかなと今は思っております。

去年の1月から自治会バス運行しましたが、今日までアルコールで異常があったという報告はありません。というのは、やはり乗務員の方1人1人が高い意識を持って取り組んでいただいていると私は感謝しているところでございます。もし何かあった場合は大変なことになりますので、これをこれから先も継続して、このまちづくりに貢献していきたいと思っております。以上です。

○（事務局） ありがとうございます。それでは、最後に八尋会長に今後の展望などについて、発言をお願いしたいと思います。

○（八尋会長） もう今8名の方が言っていたのが全てだと思っております。

昨年の末に運転手さんたちと集まりといいますか、懇親会をしたんです。そのときに初めて、運転手さんたちの本当の素というか、ありのままの姿がよく見えて。1年間ではあったけど、本当にアルコールも我慢して健康管理に努めてやってこられて、お客様の声、

利用者の声をストレートに言っていただいた。本当にやってよかったというか、住民の声を洗いざらい言っていただいたことがこの1年間を物語っていたかなというふうに、率直に鳥肌が立つぐらい感動をさせていただきました。

先ほど津下運行責任者が言われましたけど、安心安全というのはやっぱりまちづくりの基本ですし、御笠自治会バス自体がそれを物語っていると思います。御笠自治会のまちづくりの形が1つできあがってきていると思っています。前会長のときから、人生100年時代がくるから、買い物難民と高齢者の免許証返納はもうあり得ると。いつかはしないとイケないという話をしていました。だから、それにまず対応できたことが本当に素晴らしいです。まちづくりの1つの原点ができたなというふうに思っています。

余談になるんですけど、自分も運転をさせていただいて、もう耳にタコができるくらい言われた言葉がありまして、終点がカミーリヤなんですよ。何でこんないい自治会バスがあるのにカミーリヤに行くのに利用せんっちゃろうかね。あんたたちのPRが悪いんじゃないとね、という。終点がカミーリヤ、これは健康推進活動、つまりいきいきとした活動をする場所がカミーリヤですから、カミーリヤに行く目的もあるし、買い物に行く目的もあるじゃないですか。だから、このカミーリヤに行けば、お風呂もあるし、いろんな体操もできるから、もうちょっとカミーリヤを利用するような形をとってくれっていうのがもう何回も言われた言葉ですね。

それから、バスマニアっていう人を私は2人くらい乗せました。全国的に御笠自治会バスのようなケースはまれだと。それで、バスマニアが乗ってくるんですよ。ずっと最初から最後まで、途中ちょっと降りたんですよ。そこで、まず200円払って。また乗って、200円払って帰りましたけど、あんた何でそげん好いとうとって聞いたら、いやこれはすごいと。こんな細い道に行くようなバスないですよとバスマニアが感心していましたね。こんなくねくね曲がったところをよくぞこのバスは通るっていうことを言われました。ですから、バスマニアの中でも結構連絡を取り合っているというようなことを聞きました。

それから、宝満山の登山者がくたびれて、あそこで途中で乗るんですよ。宝満山登山者にも利用していただいたのはちょっとびっくりしましたが、そういうことでしたね。

1番僕が心臓どきどきしたときは、8人乗られたときなんですよ。もう1人来たらどうしようかなってどきどきして、そのときは誰かに連絡せないかなって思ってた、たまたまその日はそれで終わったんですけど、皆さん定員いっぱいときもあったので、そのときの対応をどうしたらいいかっていうことを、今運転手さんは心配をしています。1人、

2人じゃないもんですから、その辺を今から先、3台目もありますので、内部的に検討していかなきゃいけないなと考えています。

最後ですけど、先ほど緊急時の対応のことを申しましたけど、やっぱり住民の人から苦情が出るのも何で動かんのかっていうことですから、その辺の対応を、自治会の自治会長さんとか行政区長さんに行くようにはしているんですけど、やはりまだそこが連携がうまくいっていないところだし、大きな課題なんだと思います。

いずれにいたしましても、今日が1年目の報告になりましたが、これを継続していき、2年、3年になったときに、願わくば御笠だけじゃなくて、ほかのコミュニティでも運営ができるような、ある程度の仕組みづくりができればと思います。櫻木さんが言っていましたけど、この自治会バスがまちづくりの大きな原動力になっていることは間違いないし、支えていただいている運転手さんたちの日々の健康管理と努力には、本当に頭が下がる思いです。御笠自治会バスをきれいに磨いていただいて、本当に大事に扱っていただいています。あわせて感謝を申し上げるとともに、筑紫野市の企画政策課を中心としたサポート体制で、こちらも本当に小さなことからいろいろそちらにおつなぎしたり、そちらから実際にバックしていただいたりしているんですけど、日々そういう支援協力体制ができていくことも、今後も引き続き重要な事業として、継続性のある形で取り組んでいただきたいなど切に思う次第でございます。以上です。

○（事務局） 自分たちのまちは自分たちの力でという、ふるさと御笠地域を思うあたたかいご意見をたくさん聞かせていただきました。本当にありがとうございました。

それでは、これまでのお話を受けまして、藤田市長から御笠自治会バスが走り出すまでの思いや、これからの地域に期待することなど発言をいただきたいと思います。

○（藤田市長） 99回めの移動市長室にお邪魔をしたわけでございますけど、これだけこの地域のまちづくりに真剣に、そして熱意をもって取り組んでいらっしゃる御笠まちづくり協議会の八尋会長さんを中心としての自動車部会の活躍を今日はしっかりと聞かせていただくことができ、素晴らしい99回の移動市長室に、よくぞ御笠自動車部会を視察させていただいたと感謝の気持ちでいっぱいになりました。

それぞれに皆さん方、28名いらっしゃる運転手の皆さん方、安全管理をしていらっしゃる方々、事務局の皆さん方も、ご苦労や口には出せないこともたくさんあるんだろうと思いますが、まずはこの1年間を振り返って、安全で安心、お互いが、そしてお客さんも安全で喜んで期待を持って乗車していらっしゃる。喜びをもって使わせていただいている。

そういうこの自動車部会の活動が非常にあたたかくもあり、本当に今からのまちづくりを進めていくこの7つのコミュニティ、つくらせていただいて、今まだ5年ぐらいしか経ってないんですが、これからのまちづくりの大きな目標、やればできるというような実践を学ばせていただいたと同時に、非常に参考になることをたくさんいただいた99回目の移動市長室であったと思います。

八尋会長さんはじめ、今日ご出席の皆さん方に心から感謝の気持ちを申し述べ、私の総評とさせていただきますが、今後ともお話にありましておとり、安全安心の地域づくり、まちづくりに皆さん方の力をぜひともお貸しいただいて、これを私としては筑紫野市に広めていきたい、伝えていきたいと、このようなことを最後に申し上げて、お礼のあいさつに代えさせていただきますと思います。本日は誠にありがとうございました。

○（事務局） それでは、本年度の筑紫野市全体の予算や主な施策について、秘書広報課の渡辺が説明させていただきます。画面をご覧くださいませ。

○（秘書広報課） それでは、お時間をいただきまして筑紫野市の施策概要について、説明をさせていただきますと思います。

市では、市民の皆さんに納めていただく税金などをもとにさまざまな事業を行っているところです。初めに、市の予算についてご説明いたします。こちらは、本年度12月議会での補正後の歳入予算の内訳です。総額は324億7,614万1,000円。最も大きな割合を占めるのが市税で、全体の41.6%。金額は約135億円です。オレンジ色の部分が自主財源。市が自主的に調達できるお金です。歳入全体の50.1%を占めています。対する緑色の部分が依存財源、全体の49.9%です。依存財源には国や県からの交付金や市債などがあります。

続いて、こちらは同じく補正後の歳出予算の内訳で、使う目的によって分類した円グラフです。総額が324億7,614万1,000円。その中で、1番大きな割合を占めているのが民生費です。主に子どもや高齢者の福祉などに使われるお金です。急速に進む少子高齢化社会に対応すべく、高齢者の暮らしを支える仕組みづくりや次の世代を育む子育て支援などに取り組んでいます。予算の47.5%を占め、その額は約154億円です。以下、総務費、衛生費、教育費、土木費、公債費と続きます。その他の中には、議会や農業、商工業、消防などの予算があります。

続いて、まちづくりの方針である総合計画についてご説明いたします。第五次総合計画は平成28年度から平成31年度までの計画です。その中で筑紫野市の将来都市像を、

「自然と街との共生都市 ひかり輝くふるさと ちくしの」としました。計画年度が今年度までとなっていますので、現在は第六次総合計画の策定を進めているところです。

この将来都市像実現のための政策として、「未来をつくる～すこやかに育つまちへ、自然と都市機能が調和するまちへ～」や「共助社会づくり～いきいきと元気の協働のまちへ～」など5つの政策を柱として、さまざまな事業に取り組んでいます。

自然と街との共生に向けて、地域の宝といえる国指定史跡宝満山については、平成30年7月の豪雨災害の復旧作業など保存活用に取り組んでいます。

さらに総合計画では、重点施策として次の5つ、地域コミュニティづくり、高尾川鷺田川の浸水対策、市庁舎建設、地域交通対策、筑紫駅西口土地区画整理事業の5つを掲げ、積極的な推進を図っています。

この重点施策の中から2つ、詳しくご説明させていただきます。

まず、地域コミュニティづくりについてです。平成30年度に7コミュニティの地域まちづくり計画が揃い、各地域でそれぞれの課題解決に向けた取り組みをしていただいているところです。市としても、各コミュニティと連携し、協働のまちづくりを推進していきたいと考えています。

次に、地域交通対策についてです。昨年1月から皆様のご協力のもと、御笠自治会バスおよびコミュニティバスつくし号の運行を開始することができました。既存のカミーリヤバスや路線バスと連携しながら、これらのバスの定着、利用促進に努めてまいります。

最後に、市の事業の中で皆さんの活動に関連するものをご紹介します。

まずは、コミュニティバスの運行事業。令和元年度の予算額が3,273万4,000円。全市的な移動環境を構築するため、先ほど紹介したつくし号や御笠自治会バスの運行委託を行うものです。

次に、生活交通対策事業、こちらも今年度予算額が3,348万2,000円。路線バスの安定した運行のため、乗合バスの事業者へ補助や委託を行うものです。

最後に、カミーリヤ巡回福祉バス運営事業、本年度予算額が1,819万4,000円。カミーリヤを発着点として、市内5つのコースを運行しています。

これらをはじめとするさまざまな事業をもとに、市の交通利便性の向上に取り組んでいます。以上で、施策概要についての説明を終わります。ご清聴ありがとうございました。

○（事務局） それでは、最後に藤田市長からお願いします。

○（藤田市長） 言葉が出ないくらい皆さんの熱意が、こう胸打つものがありました。さっ

きも言いましたけど、やっぱり自助・共助・公助のまちづくりをするために、7つのコミュニティをつくって、今現在は自助・互助・共助・公助になった時代の中で、まさにこの自助・互助の精神が皆さん方にしっかり表れてるということを強く感じたところです。自動車部会の皆さん方は、八尋会長のお話にもありましたように、市民の安全安心のため、自分の業務にしっかりと責任を持った行動をしていただいている。このほかにも、青パト隊や見守り隊、地産地消、御笠はいっぱい部会があるんですね。まさにコミュニティの先進的な取り組みをしていただいている地域であると思っています。

それぞれの皆さん方ができることをできるだけ、できるときに一生懸命前向きに取り組んでいこうという精神が、既にこのコミュニティは宿っていると、そのようなことを今日は非常に感じました。あと、筑紫野市のまちづくりのために大変大きな原動力をいただいたような気がして、感謝に堪えません。本当に今日は長時間ありがとうございました。御礼を申し上げます。

○（事務局） 今日には職員がたくさん来ていますけれども、皆さんからのお話を聞かせていただいて、本当に感動させていただきました。ありがとうございました。

それでは、これをもちまして、第99回の移動市長室を閉会にしたいと思います。